



工場には「電解めっき」ラインと「無電解めっき」ラインがある。同社では太陽光発電事業にも参入し、売電によって得た利益を本業の研究開発費に充てている。

全社一丸・顧客志向で 選ばれ続けるものづくり。

東電化工業株式会社

代表取締役社長 若泉 裕明 氏



社員の結婚式では、欲しいものを必ずプレゼントするという若泉社長。社内行事も充実させ、社員との親睦を深めている。

大仙市協和に立地し、木立に囲まれた工場で行っているのは、電子部品等への「めっきによる表面処理」。1982年に県の誘致企業として設立され、操業当初は大手電機メーカーの半導体へのめっき処理がほぼ100%を占めていた。若泉裕明社長は2011年に3代目の経営者として就任。業界の変化のスピードを肌身で感じ取り、若いパワーと感性を活かしたリーダーシップで同社を力強く牽引している。



年度ごとの目標や、個人の強みをNo.1に伸ばす目標（「これをやったらNo.1」）を、社員それぞれが掲げる。

改革の断行

かつて、同社の売上は大手の顧客1社に依存していた。現在では、経常的に取引を行っている顧客は約60社にのぼる。LED基板をはじめとする各種基板へのめっき処理を受注、売上も伸ばしている。これは若泉社長自ら新規開拓を担い、営業体制と研究開発に力を注いだ功績でもある。若泉社長は大学卒業後、シンガポールで6年間働いたのち東京にある姉妹会社での勤務を経て入社。創業者の孫であり、現会長の甥であるため、ゆくゆく経営者になることは本人も周囲も意識していた。「誰よりも

仕事ができ初めて初めて認められる」と考えていた若泉社長は、入社から5～6年間は昼夜問わず、がむしゃらに働いたという。それまでしばらく実施していなかった新入社員の採用も再開させた。東京からやってきた若い後継者が巻き起こす新風に、多くの離反者も出た。しかし、多少強引なトップダウンも敢えて断行。若泉社長にはゆるぎない覚悟と思いがあったからだ。時代の変化についていけなければ生き残れない、「現状維持は衰退である」—そのことを身にしみて知っていたのだ。

“天国と地獄”の体験

若泉社長は、シンガポールでふたつの会社に勤めた。ひとつはローカルのプリント基板製造会社。もうひとつはめっきの薬品会社。この2社での勤務は、まさに“天国と地獄”と表現していいほど対極的な体験となった。“天国”の体験は、後者。あふれんばかりに仕事があり、充実していた。一方“地獄”の体験は、最初に就職したプリント基板の製造会社が倒産したことである。電気、水道が止められた状態で、給料を払えない従業員を動かしてギリギリまで仕事をしなければならなかった。その苦しさ、悔しさをいやというほど味わった。「人生の中で一番大きく、今の自分の考え方の根底を形成していると言える体験でした」と若泉社長。絶対にこうなるとはいけぬ、なりたくないという思いが、改革に伴う痛みを恐れずに突き進む原動力となった。

「今がんばってくれている社員こそが、私を支えてくれる大切な仲間です。一人でも欠けたら困る、そう思っています」。今、全社一丸体制は盤石になり、進化を見せている。

社員と共に、顧客と共に

東電化工業の経営戦略は、柱がふたつある。量産品は可能な限り低価格で提供すべく生産工程を工夫すること、そして、研究開発によって付加価値の高い提案を行い、顧客がよりよい製品を世に出すために貢献すること、である。同時に、ものづくりを行う企業として、品質には真摯に向き合い、妥協しないという姿勢を貫いている。「他社から乗り換えてもらう取引先は増えていますが、当社から離脱する取引先はありません」と若泉社長は言う。同社の徹底した顧客志向が支持されている証しであろう。

製造現場には、営業や研究開発部門の社員の姿もある。少数精鋭の組織であるため、現場が立て込んでいる場合は部門の垣根を越えて協力し合う体制を整えているのだ。現場の雰囲気は明るく、チームとして業務にあたる社風ができている。来客に対し一人ひとりがきちんと目を見て挨拶をかわす習慣が根付いているのも印象的だ。同社で掲げているキャッチフレーズは「変革・挑戦・創造」。全社員の力を結集し、情熱を持って、時代の荒波を渡る同社の活躍に、ますます目が離せない。



目視による品質チェック。「このような繊細な作業には女性の方が向いている」と若泉社長。今後は、製造業ではまだまだ少ない女性管理職の育成にも注力していく考えがある。女性ならではの感性が新たな戦力になることに期待を寄せている。

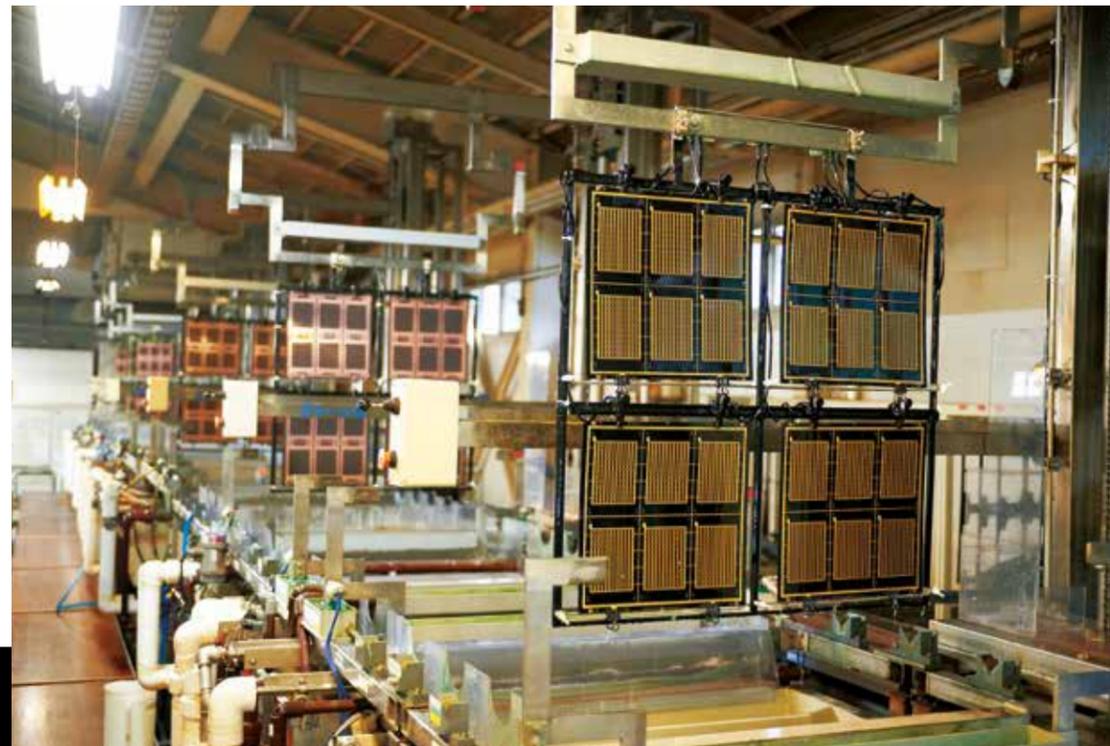


熟練工の目だけでなく、最新の解析機器を豊富に取りそろえているのも同社の特長。めっき液と排水中の金属濃度を分析できるシステムや、表面処理皮膜の厚みと成分比を測定する装置などがある。



セラミック粉末にめっきしたサンプル。粉体にもめっきできる技術が同社にはある。

「電解めっき」ライン。めっき加工する基板をセットし、めっき液につけて電流を流す。基板をおさえてあるクリップから電流が流れるしくみになっている。



東電化工業株式会社

〒019-2401
秋田県大仙市協和船岡字
善知鳥14番地1
Tel. 018-892-3411
Fax. 018-892-3413
http://azumadenka.co.jp

- 設立/昭和57年3月
- 資本金/94,000,000円
- 売上高/10億7千万円
- 従業員/70名
- 事業内容/各種表面加工